

令和5年度 第3回赤佐小学校運営協議会 会議録（重点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月27日（月） 9時45分～11時45分
- 2 開催場所 赤佐小学校 会議室
- 3 出席委員 山内正隆、湖東秀隆、佐藤敏己、大石祥範、大城むつ子、文屋沙弥子
内山真由美、野末智美
- 4 欠席委員 石牧真志、竹内清人
- 5 学校支援CD 伊藤登紀子
- 6 オブザーバー 小杉幸次（中瀬協働センター）
- 7 学 校 松本孝久（校長）、工藤幸徳（教頭）、袴田加奈子（主幹）
徳田 衛（CS担当）、鈴木晴代（CSディレクター）
- 8 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 協議事項
 - （1）議長の選出について
 - （2）前回会議録、第2回協議会会議議事録の確認
- 11 熟議内容
 - （1）子供たちの様子について（学習発表会の参観や地域での様子を通して）
 - （2）今年度の教育活動の成果と課題について
 - （3）よりよい教育活動を支えるさくらっ子応援団の活動について
- 12 会議録作成者 CSディレクター 鈴木晴代
- 13 会議記録

教頭から、委員8人の出席（2人欠席）が確認され、会議が成立している旨の報告があった。

- （1）議長の選出について意見を求めたところ、野末委員より立候補があり、全員異議なく承認をした。
- （2）前回会議録、第2回協議会会議議事録の確認

教頭より前回の会議録の説明があった。

主幹より学校評価の中間報告が説明され、児童が全項目において85%以上の満足度を示していることが分かった。それを受け、グループごとに協議をし、子供の自己肯定感が高まっていること、上級生が挨拶でもリーダーとして取り組んでいること、学校で行っていることがより保護者に伝わるような手段が必要なことなどの意見がでた。

また、学校支援活動として1学期の取組を振り返り、クラブ活動などの取組に対するよりていねいな説明の必要性や九九暗唱などの活動への理解などが得られ、一定の評価を受けた。

- （3）熟議内容

子供たちの様子について（学習発表会の参観や地域での様子を通して）

議長の指示により、教頭より話があった。

子供たちの様子が、目指す子供像に近づいているか、学習発表会・地域での様子を伺いたい。これを受けて、議長から委員に意見を求めた。

・学習発表会は学年ごとの発表で、学年の特色をまとめながらうまく発表していた。

子供一人一人が主役になっていた。見ている子供も楽しそうだった。（山内委員）

- ・学習発表会は子供がきらきらスマイルで楽しく見られた。 (大石委員)
 - ・地域での様子で、あいさつをしてくれるようになってきた。かけ算九九のボランティアには参加をしたい。 (伊藤委員)
 - ・1年生は皆、一生懸命取り組んでいた。各学年で見せ方が工夫されていて、子供たちも元気にできた。高学年の合唱・合奏は良かった。地域では「いきいきサロン」に3年生が来てくれて、段ボールで作るスマートボールを作って楽しんでいた。できない子には会員が声をかけていい関わりがもてた。 (大城委員)
 - ・1年生は緊張しながらも生き生きできた。他学年の発表を見るのはやりがいを感じるのではないか。私事だが、子供の友達が入院した祖父の心配をしてくれた。地域のつながりが密である。 (文屋委員)
 - ・1年生は声もはっきりして堂々としていた。他学年も上級生は下級生を優しい目で見、下級生は上級生をあこがれの目で見ている。自分ができる限りの自己アピールをされていて大事だと思った。 (内山委員)
 - ・プログラムを見て、配慮されており、1年生の出番が2番めで緊張してなかった。 (佐藤委員)
 - ・どの子も堂々としていて良かった。金管バンドのライブも見に来たが、今年度で終わりは寂しい。何か反映できたらと思う。地域では、学校からの帰宅後、遊びに出た子供が自転車で斜め横断をするのを見かける。生活に慣れてきているので、安全を呼びかけてほしい。 (湖東委員)
 - ・子供がしっかりしていると思った。 (野末委員)
- 以上のような意見を共有し、協議内容を承認した。

今年度の教育活動の成果と課題について

議長の指示により、教頭より話があった。

子供たちはあいさつ、言葉遣いはできるようになっている。全校で集まるときに「動」と「静」ができています。あいさつ、言葉遣いについて地域連携ができるか、話し合いをお願いした。

議長よりグループで話し合うよう提案した。 — 話し合い —

グループ① (山内委員・大石委員・伊藤CD・工藤教頭)

- ・地域連携については、子供会等の活動が少なくなり保護者同士で会う機会がないので作れると良い。

- ・地域の方が、旗振りをしてくれていて、声をかけてくれる。 (伊藤CD)

グループ② (文屋委員・大城委員・内山委員・徳田CS担当)

- ・子供だけでなく、大人があいさつに抵抗がある。きっかけとして、意識して子供に声をかけていく。個人の意見として、月一回自治会の班長会で学校での取り組み(あいさつ・言葉遣い)を地域に伝えてもらうのはどうか。 (内山委員)

グループ③ (湖東委員・佐藤委員・野末委員・袴田主幹教諭)

- ・子供に言う前に親が問題である。子供会で連携したいが各地区バラバラ、赤佐地区全体で行ったらどうか。各家庭の教育も大事である。 (野末委員)

教頭より家庭学習ができていないか意見をお願いした。 — 話し合い —

グループ④ (湖東委員)

- ・保護者がしっかり宿題を見ているか、実態が見えない。アンケートをしても疑問がある。

グループ②（内山委員）

- ・家庭の状況によっては、なかなかできないだろう。学年×10分だが逆の発想で低学年は時間がかかるので60分、6年は集中的に10分濃い内容の学習に、時間というより行う内容を重視してもいいのでは。

グループ①（伊藤CD）

- ・学習＝書き取り、なぜ与えられたところを書くのか疑問になる。机に向かって一定時間座っているのは意味がある。自主学習は先生が良い事を書いてくれるので、伸びるのではないか

議長の指示により校長より話があった。

- ・20年後30年後を見たときに、漢字を書いたり、算数ドリルを解いたりすることが大切ではなくなるだろう。子供の肯定感を高めることや、やる気を伸ばすことを意識して取り組ませたい。自主学習では、例として恐竜図鑑を作ることを挙げ、自分で調べて書くことにより子供の興味のあるものをやると自然に漢字学習・算数を覚えることが理想である。
- ・あいさつは良くなってきているが、半数は無反応である。就学時健診では、保護者があいさつをしないのが気になった。最近、スマホのチェーンメールが届いていたが、保護者のスマホの管理も呼びかけていく必要がある（松本校長）

以上のような意見を共有し、協議の内容を承認した。

よりよい教育活動を支えるさくらっ子応援団の活動について

議長より「さくらっ子応援団」として主体性・自分らしさにどのくらいつながっているのかコーディネーターから説明するよう指示があった。

- ・クラブ活動、あいさつができています。先生をお迎えするときのきらきらした目が印象的で主体的に取り組んでいる。（伊藤CD）
- ・クラブ活動、子供たちが楽しそうに行っている。2月1日にあるので、見てほしい。その他のボランティアは1年の給食、下校（4月初旬）家庭科の補助等あったが、低学年の保護者が比較的多い。校外学習補助は父親の参加もあった。今後はお手玉の作成、九九暗唱を予定している。学校で子供たちが何をしているか、参観会以外で様子を見られて良いとの声もあった。先生一人ではクラス全体を見るのは大変である。（野末委員）

よりよい活動について、グループで話し合った。―― 話し合い ――

グループ③（袴田主幹教諭）

- ・学校のことを思って考えてくれている。何でも言ってほしいと言われ助かっている。先生の負担が減るように教員も学べると良い。参観会、一週間の自由参観日があるといつでも参観できる。

グループ②（徳田CS担当）

- ・実践が素晴らしい。ボランティアの評価も良くボランティア募集もさくら連絡網で広がってきている。

グループ①（伊藤CD）

- ・活動がないと保護者は自分の子供しか見られない。活動があれば広く子供を見られる。保護者の視野が広がり自分の子供を見る目も変わる。

教頭より、つながりを広げていきたい。子供が主体的に自分らしい活動ができると良い。前回クラブが変わっていると指摘を受けたため、説明を添付した。来年度子供たちが主体的に取り組めるよう意見を生かしていきたい。

以上のような意見を共有し、協議の内容を承認した。

<連絡事項> 教頭

○学校評価・学校運営協議会の自己評価について

郵送または持参でお願いしたい。

○3学期の学校行事について

持久走記録会 1月26日（金）第3回クラブ活動 2月1日（木）参観会 2月6日（火）

卒業式 3月18日（月）子供の様子を見てほしい。

○教育総務課から（堀田）

応援団の話、「何でも言ってほしい」はありがたい。ただ、逆に言うと実現しないときに問題になる。できないときは理由を言い合える関係づくりが必要である。

○協働センターから（小杉）

あいさつについて、知らない人の前ではできない。協働センターでも、空手、子供スクール等で子供はあいさつをするが、保護者はあいさつをしない。

○次回の運営協議会は令和6年2月15日（木）9時45分から開催する旨の報告があった。